

入札公告

次のとおり一般競争入札に付します。

令和6年12月25日

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所管理部門長 木白 俊哉

1. 調達内容

- | | |
|--------------|---|
| (1) 調達件名及び数量 | マサバ等の水晶体の安定同位体比分析業務 一式 |
| (2) 調達仕様 | 入札説明書による。 |
| (3) 履行期限 | 令和7年3月21日 |
| (4) 履行場所 | 入札説明書による。 |
| (5) 入札方法 | 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。 |

2. 競争参加資格

- 国立研究開発法人水産研究・教育機構契約事務取扱規程（平成13年4月1日付け13水研第65号）第12条第1項及び第13条の規定に該当しない者であること。
- 令和4・5・6年度国立研究開発法人水産研究・教育機構競争参加資格又は全省庁統一資格の「役務の提供等」の業種「調査・研究」または「その他」で「A」、「B」、「C」又は「D」いずれかの等級に格付けされている者であること。
- 国立研究開発法人水産研究・教育機構理事長から物品の製造契約、物品の販売契約及び役務等契約指名停止措置要領に基づく指名停止を受けている期間中でないこと。
ただし、全省庁統一資格に格付けされている者である場合は、国の機関の同様の指名停止措置要領に基づく指名停止を受けている期間中でないこと。
- 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第32条第1項各号に掲げる者でないこと。

3. 入札説明書等の交付方法

競争参加希望者は、以下により入札説明書等（入札説明書、入札心得書、契約書案、入札書様式、委任状様式等）の交付を受けること。

① 直接交付

神奈川県横浜市金沢区福浦2-12-4
国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所
管理部門管理課
電話 045-788-7668
FAX 045-788-5001

② 宅配便着払いによる交付

任意書式に「マサバ等の水晶体の安定同位体比分析業務
入札説明書宅配便にて希望」と記入し、社名、担当者名、住所、電話番号を記載のうえ、上記①あてFAX送信すること。

③ メールによる交付

任意書式に「マサバ等の水晶体の安定同位体比分析業務
メールにて希望」と記入し、社名、担当者名、メールアドレス、電話番号を記載のうえ、上記①あてFAX送信すること。

4. 入札説明会の日時及び場所等

仕様書等に関し質疑がある場合には、令和7年1月10日までに上記3.あてにメール（アドレスは入札説明書に記載）又はファックスにて質疑を行うこと。当日までの質疑を取りとめ、回答は入札説明書受領者全員に対して行うとともに当該機構のホームページにて公表することにより入札説明会に代える。

なお、当該日以降に質疑が発生した場合も随時受け付け、同様に対応する。

ただし、質疑内容に個人に関する情報であって特定の個人を識別し得る記述がある場合及び法人等の財産権等を侵害するおそれのある記述がある場合には、当該箇所を伏せ又は当該質疑を公表せず、質疑者のみに回答することがある。

5. 入札の日時及び場所等

- | | |
|-----------------------------|--|
| (1) 入札の日時及び場所 | 令和7年1月17日 15時00分
神奈川県横浜市金沢区福浦2-12-4
国立研究開発法人水産研究・教育機構
横浜庁舎 ビデオライブラリー室 |
| (2) 郵便による入札書の
受領期限及び提出場所 | 令和7年1月17日 12時00分
3.①に同じ。 |

6. その他

- | | |
|--|--|
| (1) 契約手続きにおいて
使用する言語及び通貨 | 日本語及び日本国通貨。 |
| (2) 入札保証金及び契約保証金 | 免除。 |
| (3) 入札の無効 | 本公告に示した競争参加資格のない者の提出した入札書及び入札に関する条件に違反した入札書は無効とする。 |
| (4) 契約書作成の要否 | 要。 |
| (5) 落札者の決定方法 | 予定価格の制限の範囲内で最低価格をもって有効な入札を行った入札者を落札者とする。 |
| (6) 競争参加者は、入札の際に国立研究開発法人水産研究・教育機構の資格審査結果通知書
写し又は全省庁統一資格の資格審査結果通知書写しを提出すること。 | |
| (7) 詳細は入札説明書による。 | |

7. 契約に係る情報の公表

- (1) 公表の対象となる契約先
次の①及び②いずれにも該当する契約先
- ① 当機構において役員を経験した者（役員経験者）が再就職していること又は課長相当職以上の職を経験した者（課長相当職以上経験者）が役員、顧問等^{※注1}として再就職していること
- ② 当機構との間の取引高が、総売上高又は事業収入の3分の1以上を占めていること^{※注2}
- なお、「当機構」とは、改称前の独立行政法人水産総合研究センター及び国立研究開発法人水産総合研究センター、統合前の独立行政法人水産大学校を含みます。
- ※注1 「役員、顧問等」には、役員、顧問のほか、相談役その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、経営や業務運営について、助言すること等により影響を与えると認められる者を含む。
- ※注2 総売上高又は事業収入の額は、当該契約の締結日における直近の財務諸表に掲げられた額によることとし、取引高は当該財務諸表の対象事業年度における取引の実績による。
- (2) 公表する情報
上記(1)に該当する契約先について、契約ごとに、物品役務等の名称及び数量、契約締結日、契約先の名称、契約金額等と併せ、次に掲げる情報を公表する。
- ① 当機構の役員経験者及び課長相当職以上経験者（当機構OB）の人数、職名及び

当機構における最終職名

- ② 当機構との間の取引高
- ③ 総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引高の割合が、次の区分のいずれかに該当する旨
 - 3分の1以上2分の1未満、2分の1以上3分の2未満又は3分の2以上
- ④ 一者応札又は一者応募である場合はその旨

(3) 当機構に提供していただく情報

- ① 契約締結日時点で在職している当機構OBに係る情報（人数、現在の職名及び当機構における最終職名等）
- ② 直近の事業年度における総売上高又は事業収入及び当機構との間の取引高

(4) 公表日

契約締結日の翌日から起算して原則として72日以内（4月に締結した契約については原則として93日以内）

(5) その他

当機構ホームページ（契約に関する情報）に「国立研究開発法人水産研究・教育機構が行う契約に係る情報の公表について」が掲載されているのでご確認いただくとともに、所要の情報の当機構への提供及び情報の公表に同意の上で、応札若しくは応募又は契約の締結を行っていただくようご理解とご協力をお願いいたします。

なお、応札若しくは応募又は契約の締結をもって同意されたものとみなさせていただきますので、ご了解願います。

8. 公的研究費の不正防止にかかる「誓約書」の提出について

当機構では、国より示された「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（平成19年2月15日文科科学大臣決定）に沿って、公的研究費の契約等における不正防止の取り組みを行っており、取り組みのひとつとして、取引先の皆様に「国立研究開発法人水産研究・教育機構との契約等にあたっての注意事項」（URL：http://www.fra.affrc.go.jp/keiyaku/pledge_request/note_contract.pdf）をご理解いただき、一定金額以上の契約に際して、当該注意事項を遵守する旨の「誓約書」の提出をお願いしています。

公的研究費の不正防止関係書類（①公的研究費の不正防止にかかる「誓約書」の提出について、②国立研究開発法人水産研究・教育機構との契約等にあたっての注意事項、③誓約書）は、入札説明書に添付しますので、契約相手方となった場合は、誓約書の提出をお願いします。

なお、当機構の本部、研究所、開発調査センター、水産大学校いずれか1箇所に1回提出していただければ、当機構内の次回以降の契約では再提出する必要はありません。

業 務 仕 様 書

1. 件 名 マサバ等の水晶体の安定同位体比分析業務
2. 業務目的 本業務は、小型浮魚類（マサバ等）の発生海域および回遊海域を推定するため、水晶体中心部等の同位体比を分析することを目的とする。
3. 納入場所 神奈川県横浜市金沢区福浦2-12-4
国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所（横浜庁舎）
4. 履行期限 令和7年3月21日
5. 業務内容
 - 1) 検体 マサバ等水晶体標本 410検体
 - 2) 試料等の確認
請負業者は試料受領後、速やかに試料と試料一覧表を照合し、試料の状態等について確認を行い、担当職員へ受領した旨を連絡する。試料と試料一覧表との不一致や輸送中の事故があった場合は、取扱いについて担当職員と協議する。
 - 3) 元素分析・安定同位体比分析
試料は分析用スズ箔に封入された状態で送付する。含まれる炭素（C）および窒素（N）量を有効数字2桁以上で測定する。また、連続フロー型同位体比質量分析計で試料の炭素と窒素の安定同位体比を測定する。分析精度は標準試料を連続5回分析した際の標準偏差で判断し、 $\delta^{13}C$ は0.1‰以内、 $\delta^{15}N$ は0.2‰以内とする。分析精度の確認は試料の測定日ごとに1回以上おこなう。また、分析中のドリフトを試料10検体毎に標準試料を分析する。標準物質の測定結果は全て成果品に記載すること。
 - 4) 成果品提出
以下（A）と（B）の両方を成果物として担当職員宛に送付する。送付方法はE-mailが望ましいが、ファイルサイズが大きい場合はDVD等の郵送でも良い（送付時の送料は請負業者負担とする）。
 - （A） 各試料および標準物質の炭素量・窒素量、炭素・窒素の安定同位体比の測定値を表形式（エクセル等）に整理した電子ファイル。
 - （B） 測定の生データ（クロマトピークデータ等）
6. その他
 - 1) 業務に必要な消耗品等は請負業者にて準備すること。
 - 2) 成果品ファイルは必ずウイルスチェックを行うこと。
 - 3) 仕様書に反する成果品が提出された、分析結果が当所でのクロスチェック結果と大きく異なった等、分析の不備が疑われる場合には再分析を求めることがある。
 - 4) 作業内容は必ず担当職員と打ち合わせを行い、合意を得たうえで作業を進めること。
 - 5) 本業務で知り得た情報について、取扱責任者を置き、社内で適切に管理を行うこと。
 - 6) 業務で知り得た情報について、第三者への開示をしないこと。